

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月1日
令和4年4月号

農政時事



新たな千葉県農林水産業振興計画 (園芸部門別戦略)の策定について ～園芸産地の拡大に向けた力強い産地づくり～

千葉県農林水産部生産振興課
課長 森本 修司

令和2年の本県の園芸産出額は、1,655億円で、農業産出額全体の約4割を占める重要な部門となっています。県では、本年3月に「千葉県農林水産業振興計画」(令和4年から7年)を策定し、計画に基づく各種施策を展開することにより、産地の生産力や販売力の強化に取り組みます。

本県は、首都圏に位置する好立地と温暖な気候に恵まれ、年間を通じた園芸生産が盛んです。ねぎやにんじん、さつまいも、キャベツ、トマトなどの野菜類、日本なしやびわ、温州みかんなどの果樹類、切花をはじめ、様々な品目が生産されていることが大きな特徴です。

近年、農業を取り巻く状況は大きく変化しています。農業者の高齢化等により、生産面積が減少する一方で、スマート技術などの先端技術の導入による効率化が進んでいます。また最近では、新型コロナウイルス感染拡大の影響も加わり、消費者のライフスタイルが急激に変化しており、その変化への対応が求められています。これらの状況を踏まえ、県では本年3月に、令和7年度までの4年間を期間とする「千葉県農林水産業振興計画」を策定しました。園芸部門では、園芸生産の拡大に向けて力強い産地づくりを進めてまいります。

まず野菜については、産出額上位10品目の合計を令和2年の1,036億円から令和7年に1,350億円とする目標を掲げました。低コスト耐候性ハウスや省力化機械等の導入に加え、環境モニタリング装置やドローンなどスマート農業機械等の導入を支援し、収量・品質の向上を推進します。その他、水田転作や水田の畑地化などによる園芸産地の拡大、集出荷貯蔵施設の再編整備への支援など市場動向を捉えた供給体制の強化などに取り組みます。

また、野菜の産出額上位4品目(ねぎ、さつまいも、にんじん、トマト)を、市場における本県産の地位を堅持すべき「強化品目」として、品目ごとに県内統一の産地戦略を示し生産振興を図ってまいります。

果樹では、主要品目である日本なしの産出額を令和2年の87億円から令和7年に145億円とする目標を掲げました。各産地における「果樹産地構造改革計画」の策定を推進し、計画の確実な実行を支援します。また、スマート農機等の省力化機械の導入や、老木園の改植、省力樹形の導入支援に加え、日本なし「秋満月」など、県が育成した新品種の生産拡大とPRによる消費拡大などにも取り組みます。

花植木では、花き類の産出額を令和2年の161億円から令和7年に207億円とする目標を掲げました。生産力や収益性を向上させるため、ハウス等の施設導入や老朽化したハウスのリフォームの支援、台風などの災害に強い施設への転換やスマート農業技術の導入、夏期の暑熱対策技術の導入などを支援します。

また、花きの流通・販売体制を強化するため、販売ロットの拡大や、出荷情報の迅速な発信、花持ち性向上のためのコールドチェーン化など市場ニーズに対応できる産地づくりを支援します。

植木類については、輸出拡大に向けた相手国の検疫対策や、国内外の実需者と産地のマッチング支援など、販路開拓に取り組みます。さらに、県産花植木の需要拡大に向けて、若い世代への花育の推進、展示会や商業施設等での県産花植木の魅力発信、花植木文化や伝統樹芸技術の継承・普及に取り組みます。

今後とも、(公社)千葉県園芸協会や市町村、JA等と力を合わせ、本県の園芸振興に取り組んでまいります。



産地間連携に係る令和3年度の取組概要と 令和4年度の方向性について

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部
(執筆者：(現)千葉県農林水産部生産振興課
農産班 班長 雲内 浩平)

千葉県園芸協会では、平成26年度から、県や全農千葉県本部、関係JA等をメンバーとして、本県の主要野菜7品目を中心に、産地の共通課題の解決に向けた産地間連携に取り組んでいます。今回は、令和3年度の取組の概要と令和4年度の取組の方向性について御紹介します。

1 はじめに

令和3年度は、主要野菜7品目のうち、特に近年の減収幅が大きい、ねぎ、トマト、及び需要の高いさつまいもの3品目を中心に、県・全農千葉県本部と品目別協議会戦略チーム会議を開催しながら、以下の取組を行いました。

2 トマトの取組

(1) 令和3年度の取組概要

- 抑制トマトは、夏季の高温や黄化葉巻病などによる出荷減の課題解決のため、山武地区をモデルに選定し、栽培チェックシートの作成、現地検討会の実施等により基本技術の励行を推進し、生産量の底上げを図りました。
- 冬春トマトは、環境制御技術の普及による増収を目指し、専門家によるコンサルや講義による研修会を年6回開催し、産地全体の技術力向上を図りました。また近年低迷している販売単価の確保に向け、戦略チーム会議を計5回開催し、今後の本県産冬春トマトのあり方について、様々な角度から議論を重ねました。

(2) 令和4年度の方向性

抑制トマトは灌水対策を中心に、より効果的な高温対策を検討するとともに、黄化葉巻病対策の情報共有を行います。また、冬春トマトは増収・有利販売の達成に向け、引き続き環境制御技術の普及、高単価販売に向けた協議を進めます。



トマトの現地検討会の様子

3 ねぎの取組

(1) 令和3年度の取組概要

- 主力産地（匝瑳、山武、長生）の生産量・反収の底上げに向け、関係機関を構成員とした九十九里ねぎ連絡協議会を中心に現地試験を行い、夏季の高温や排水不良による病害等の課題解決に取り組みました。

- 面積拡大及び省力化を推進するため、現行の出荷規格の簡素化及び統一に向け、産地と話し合いを重ね、調製・販売試験を行いました。

(2) 令和4年度の方向性

排水・高温対策などに引き続き取り組むとともに、簡素化規格については、改めて市場関係者との協議、生産者を交えた意見交換を行う予定です。



ねぎの箱詰め試験の様子

4 さつまいもの取組

近年の需要増に供給が追いつかず、販売単価は高値安定の状況ですが、他県では増産の動きがあり、本県も生産量の底上げが必要です。

(1) 令和3年度の取組概要

- 主力産地（香取）では、労力負担などの課題について、産地と意見交換を行うとともに、販売促進活動として「べにはるかの日」を設定し、資材を作成しました。
- 新規産地の育成に向け、地域の現状を把握し、次年度の栽培試験に向け、苗供給に向けた準備を行いました。

(2) 令和4年度の方向性

主力産地では、引き続き関係機関と苗供給及び労力支援の体制について協議するとともに、新規に試作に取り組む産地に対し、増殖苗を供給し、新産地育成を強く後押しします。

5 その他

にんじんについては、全農千葉県本部・関係JAと連携して、広域の選果場設置に係る協議を進めました。令和4年度は、春夏・秋冬に分け、改めて産地振興に向けた協議を進めたいと考えています。

他品目についても、千葉県園芸協会では、関係機関と協力し、産地連携を進めていきます。



植木の生産拡大に向けた支援について

千葉県農林水産部 生産振興課
園芸振興室 主査 寺栖 和宏

千葉県は、全国有数の出荷額を誇る植木生産県です。県産植木の生産振興のため、国内外の需要拡大に向けたPR、伝統樹芸技術の保存・継承、輸出促進に向けた生産者支援や輸出検疫条件をクリアするための技術実証など様々な取組を行っています。

1 千葉県の植木生産について

本県は、植木出荷額が40.4億円（令和元年）で全国有数の植木産地です。県内では、伝統的技術を生かした庭園樹木の他、公共から民間まで利用される緑化用樹木、ホームユース用鉢植木など、様々な用途に応じた生産が行われています。また、輸出額（令和2年）は、14億円で、県産農産物輸出額の91%を占める重要な輸出品目になっています。

2 県産植木の魅力PR

千葉県花き振興地域協議会（県、生産者団体、流通・小売業者、華道団体で構成）では、ジャパンフラワー強化プロジェクト推進（農水省）を活用して、外国人の方も多く訪れる国際色豊かなイオンモール成田において、植木に関する伝統技術と文化の展示を行いました。会場では、県産花きを活用した生け花ディスプレイの展示も同時に実施しました。

このプロモーション活動は、植木への興味や理解を深めてもらうとともに、日本の伝統文化への理解を促進し、植木の輸出拡大・需要拡大を図ることを目的に継続的に実施しています。

※期間中に予定していた「植木伝統樹芸実演会」は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

繊細さと重厚さを併せ持ち、迫力のある日本庭園に、多くのお客様が足を止め御覧いただきました。

- ・ 展示協力：千葉県植木生産組合連合会
（施工 匝瑳市植木組合）
- ・ 期間 2月10日（木）～23日（水・祝）



3 千葉県植木伝統樹芸士・植木銘木100選の認定について

県では、植木産地発展の基礎を築いた伝統樹芸技術を保存・継承し、今後の植木振興に役立てるために、平成14年から認定しています。令和3年度までに、樹芸士64名、銘木109本を認定しています。

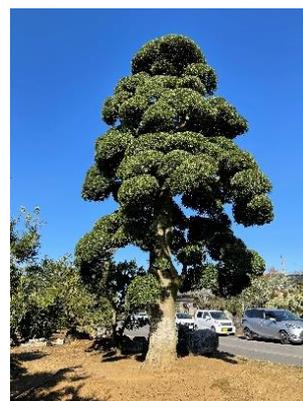
○千葉県植木伝統樹芸士

伝統的な植木樹芸技術及びその知識を有する県内生産者を、植木生産組合等からの推薦を受けて認定しています。

○千葉県植木銘木100選

本県の植木生産者の伝統技術で造形され、芸術的品位風格を備えている等、一定の基準を満たす植木について、植木生産組合等からの推薦を受けて認定しています。

これまで認定した109本のうち、31本が販売され、一部は海外にも輸出されており植木の販売拡大に役立っています。



令和3年度認定木のイヌマキ（匝瑳市）

4 その他の取組について

○「生産者と実需者を結ぶ見本園」の設置

需要拡大に向けた生産者と実需者のマッチング促進を目的に、実需者向け植木見本園を令和2年度に（公社）千葉県園芸協会種苗センター内に開設しました。見本園を活用した商談会や交流会を通し、生産者と実需者相互の理解増進を図ります（詳細は令和4年2月号にて御紹介しています）。

○輸出検疫条件をクリアするための技術実証

輸出相手国の検疫条件強化に伴い、検疫条件に適合したイヌマキの根洗い技術実証及び輸送技術実証を行い、輸出検疫条件クリアによる輸出拡大を図ります。

県では、今後とも植木産業の発展、植木文化の振興に向け取組を行ってまいります。

首都圏における千葉県産農産物の販売促進活動の展開

千葉県農林水産部流通販売課
首都圏マーケティングセンター

首都圏マーケティングセンターでは、千葉県産農産物の魅力発信と販売拠点確保のため、首都圏量販店等で「千葉県フェア」を継続的に開催しています。新型コロナウイルスの感染拡大により販売促進活動が制限された中、令和3年度に実施した取組を紹介します。

1 販売促進の取組

当センターでは、全農千葉県本部、千葉会（本県農産物の生産振興・販売強化を応援する卸売会社）と連携し、県産農産物の魅力発信と販売拠点の確保・拡大を目的として、首都圏量販店等で販売促進活動を継続的に実施しています。

2 令和3年度「千葉県フェア」について

令和3年度は、9月末に緊急事態宣言が解除されたことから、11月の県の販売促進月間に合わせ「ちばと一緒に！みんな大好きちばの味フェア（秋）」を首都圏の量販店122店舗で延べ196日間開催し、旬を迎えた秋冬野菜を中心にPRを行いました。フェアでは、ポスターなどで装飾した千葉県産コーナーを設置して集中陳列販売を行うとともに、一部の店舗では、販売促進員による商品説明、レシピやノベルティの配布を実施しました。試食宣伝は実施できませんでしたが、販売促進員との会話がお客様の購入の後押しとなったり、声かけが売場に活気をもたらしたりと、店舗の売場担当者からは久しぶりとなったフェアの開催を歓迎する声が聞かれました。

また、12月には、近畿圏のイオン85店舗で3日間「千葉県フェア」を開催し、近畿圏の消費者に千葉県産農産物を売り込みました。



千葉県フェア 売場の様子

2～3月に実施した「ちばと一緒に！みんな大好きちばの味フェア（冬春）」は、まん延防止等重点措置の適用期間と重なったため、内容を縮小して販売促進資材による売場づくりを主体に実施しました。

3 社員食堂における「千葉県フェア」

店頭での試食宣伝ができない中、県産農産物を消費者に食べて知っていただく機会として、社員食堂を運営する㈱NECライベックスの協力を得て、6月と9月に首都圏のNEC事業所各4か所で、県産農産物を食材としたメニューフェアを全農千葉県本部と共催で開催しました。詳細は「千葉の園芸」令和3年11月号の全農千葉県本部による記事を御覧ください。



フェアメニュー「野菜王国！千葉セット」（麻婆なす・千葉野菜の黒酢酢鶏・白瓜とトマトのスープ・スイカ）

4 今後の展開について

新型コロナウイルスの終息が見通せない中、従来の対面での販促に代わる新たな取組が求められています。一方で、店舗の立地や顧客層によっては対面での販促がやはり効果的と感じる面もあります。今後もフェアの実施にあたっては、関係者間で緊密に連携をとり、場面に応じたより効果的な方法を模索し、展開していきます。

開催結果



「食のちばの逸品を発掘 2022」で4商品を選定

千葉県農林水産部流通販売課
販売・輸出促進室 主査 中村 春菜

県産農林水産物を主たる原料とする加工食品のコンテスト「食のちばの逸品を発掘」。令和3年度に実施した「食のちばの逸品を発掘 2022」では4商品を選定し、販路拡大に向けた支援を行っています。コンテストの様式や受賞商品の販路拡大に向けた取組について紹介します。

1 「食のちばの逸品を発掘」の概要

ちばの「食」産業連絡協議会^{※1}と県では、県産農林水産物を主たる原料とする加工食品の中から、魅力的な「ちばの逸品」を発掘し、消費者にPRすることを目的として、平成24年度から「食のちばの逸品を発掘」コンテストを実施しています。

本コンテストは令和3年度で10回目となり、受賞商品は通算55品目となりました。

※1 農林水産業、食品産業に関連する県内事業者・団体と県から構成し、新商品の開発や新たな販路開拓の促進等を目的に活動している団体

2 2022 受賞商品が決まるまで

令和3年度は、県内の食品加工企業や6次産業化に取り組む生産者等から総数64商品の応募がありました。約20名の一般審査員による食味審査を通過した上位商品が最終審査に進み、商品開発、デザイン、流通販売、ブランド化等の専門家らにより協議された結果、4商品を選定しました。

【2022受賞商品】



一般部門 金賞
寝た芋けんぴ
株式会社芝山農園



一般部門 銀賞
船橋産ベーターキャロット
ポタージュスープ
ZUCCAMO



一般部門 銅賞
純米吟醸 東魁 粒すけ
小泉酒造合資会社



審査員特別賞
房州びわ 枇杷の実
株式会社扇屋

オンラインショップでも購入できます。

3 授賞式・商品説明会の開催

令和4年2月3日(木)、千葉市内の会場において、コンテストの授賞式及び商品説明会を開催しました。より多くの関係者に受賞商品の魅力を伝えるため、開催の様式はオンラインで同時配信しました。

参加した小売関係の担当者からは、「今後はもっと地域商品の取扱を増やしていきたい」との声も聞かれ、今後の需要の高まりが期待されました。



授賞式



商品説明会

4 今後の販路拡大支援

「食のちばの逸品を発掘」では、消費者や小売関係者向けの受賞商品カタログを毎年作製しています。現在、2022 受賞商品が掲載された新しいデザインのカタログを配布しながら、商品PRを行っています。また、より詳しく商品の魅力を紹介するPR動画をYoutubeで視聴することができます。

今後は、商談会やイベント等への出店機会の提供やメディア等を活用したPRを通して、受賞商品の販路拡大を支援していきます。

発掘された「食のちばの逸品」にぜひ、御注目ください。



食のちばの逸品カタログ
2022



チーバくんツイッター

「食のちばの逸品」の詳細はこちら→



県産農林水産物の輸出にチャレンジしよう！ ～輸出補助事業実施者募集のお知らせ～

千葉県農林水産部流通販売課

県では、県産農林水産物及びその加工品の輸出促進に向けて、「千葉の農林水産物輸出促進事業」の実施希望者を募集します。輸出の取組にぜひ御活用ください。

- | | |
|---|---|
| 1 対象団体：市町村、農業協同組合、営農組織等 | 4 予算額：ソフト1,800万円、ハード400万円 |
| 2 対象商品：本県産の農林水産物及びその加工品 | 5 助成の内容：補助率 事業費の2分の1以内 |
| 3 補助・支援対象
千葉の農林水産物輸出支援事業（ソフト）：
海外市場調査、輸出に向けた生産体制の整備、
試験輸出、海外での販促活動等に要する経費
千葉の農林水産物輸出環境整備事業（ハード）：
輸出に資する機械・施設等の整備に要する経費 | 6 応募方法
県ホームページを御確認の上（4月上旬頃掲載）、
事業実施計画書を締切日までに御提出ください。
7 お問合せ先：千葉県農林水産部流通販売課
T E L : 0 4 3 - 2 2 3 - 3 0 8 6
M A I L : 3086hanbai@mz.pref.chiba.lg.jp |

房総グルメフェアを開催しました！

千葉県農林水産部流通販売課

県では、房総ジビエ*や県産農林水産物のおいしさを多くの皆さまに味わってもらい、新型コロナウイルスにより影響を受けた県産食材の消費拡大と飲食店の皆さまを支援するため、令和4年1月24日（月）から2月28日（月）までの期間、「房総グルメフェア2022」を開催しました。

このフェアでは、県内と東京都内の店舗併せて79店が、県産食材のおいしさを最大限に引き出した多彩なテイクアウト・デリバリー料理を提供しました。野菜や肉をふんだんに使ったバラエティ豊かな料理に加えて、県が令和4年1月13日（木）に開催した房総ジビエコンテストの最優秀賞「鹿肉のラザニア」などの受賞メニューも対象店舗で提供されました。



最優秀賞「鹿肉のラザニア」

また、フェア利用者を対象に、房州産「天然活イセエビ」、銘柄豚肉「チバザポーク」の加工品セット、房総ジビエ加工品セット、イチゴ「チーバベリー」、米粉のパウムクーヘンなどの県産品が当たるプレゼント企画も実施しました。

今回のフェアでは、家庭では普段食べられない房総ジビエを始めとした「ちばの冬の味覚」を、シェフが腕をふるい開発した料理で皆さまに味わってもらい良い機会になりました。今後も県産食材の更なる消費拡大に向けた取組を実施していきます。



フェアポスター

(※県内で捕獲され、県内の食肉処理加工施設で適切に処理・加工されたイノシシやシカの肉)